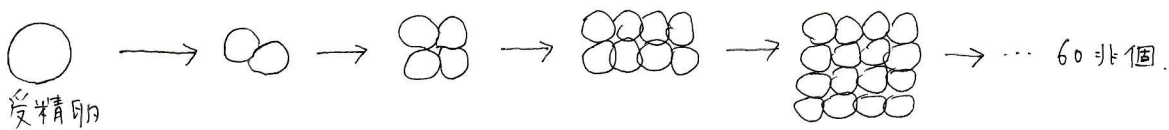


2. 分化した細胞の遺伝情報

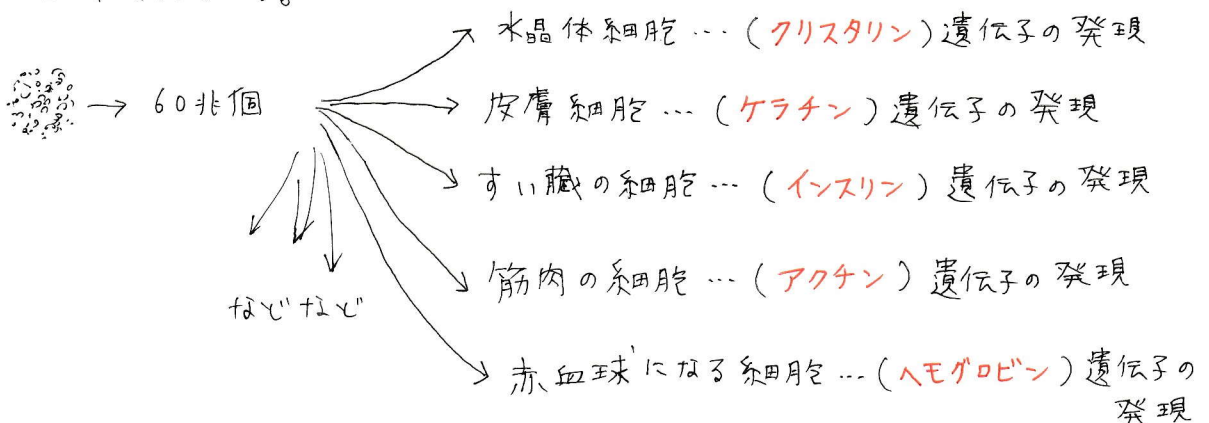
多細胞生物のからだを構成する細胞は、もとは1個の受精卵であり、これが体細胞分裂を繰り返してできたものである。

分裂した細胞が特定の形やはたらきをもった細胞に変化していくことを、細胞の(分化)という。



すべての体細胞は、受精卵と同じ遺伝情報をもつ。

分化したあとの細胞では、すべての遺伝子が常にはたらいっているわけではなく、組織や器官によってはたらく遺伝子が異なっており、(タンパク質)が合成されている。



まとめ

すべての体細胞は、受精卵の(体細胞分裂)により生じたものであり、同じ(ゲノム)をもつが、(分化)した細胞では、細胞ごとに異なる遺伝子が発現し、その細胞で構成される組織や器官では特定の(タンパク質)が合成されている。